

課題のある行政サイドと、解決する技術を持つ民間サイドをマッチングし、新しい価値やサービスの創造につなげる

### YOKOHAMA Hack! のマッチングイメージ

6 おわりに  
本市のDXの取組はまだ動き始めたばかりです。デジタル技術の進歩は極めて速く、その先行きを予測することは大変難しい状況となっています。まずは、行政手続のオンライン化や区役所における実証実験など、市民がデジタルの恩恵を実感できる取組から進めていきます。DXを実現することで、より良いサービスを市民に届けていきたいと考えています。

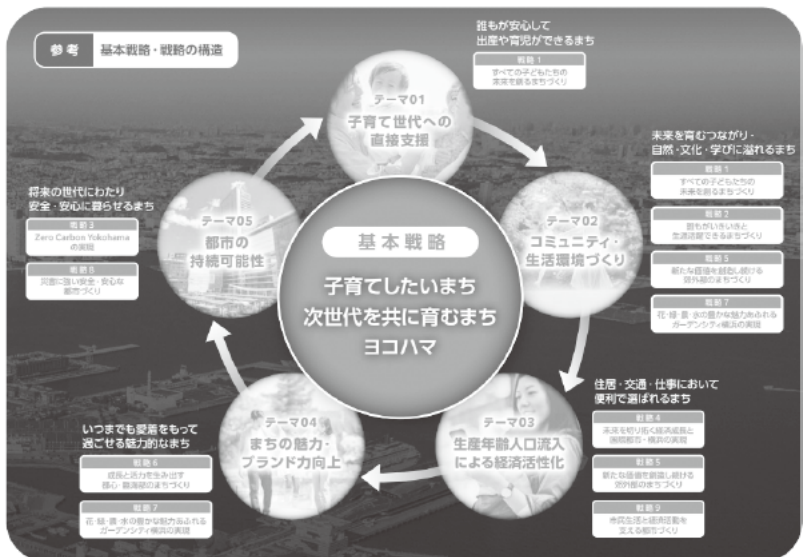
オープンなプラットフォーム、それが「YOKOHAMA Hack!」です。  
「Hack!」は、「切り開く」「突破する」といった語源を持ち、近年では、「創造性を通じて現状のあり方を劇的に改善する」という意味でも使用されています。「既成概念を打破し、新たな横浜や行政サービスを現実していきたい」という思いを込めました。  
各所管課が「今」抱えているニーズに対し、企業等のデジタル技術をタイムリーに募り、行政だけでは見つけ出せない解決策を創出できる環境を築き、横浜のDXを推進します。

令和4年6月には第一弾のニーズとして防災に関する二つのテーマを提示し、計三十五の企業等とのワーキングを経て、11月からそれぞれ実証実験を開始しています。続けて9月には都市に関する二つのテーマの解決にも着手し、こちらにも多くの関心を寄せられてもらっています。  
またYOKOHAMA Hack!のウェブサイトで、前述のほかに、横浜市のニーズをウェブ上で適宜掲載し、タイムリーにマッチングする機能等も備えています。  
今後も、様々な主体とともに、デジタルによる課題解決のソリューションを導き出していきます。

## Column コラム

# 明日をひらく都市であり続けるために ～横浜市中期計画2022～2025

編集部



様々な変化や課題に着実に対応していくため、統計データ等から将来を想定し、そこから見える課題を先取りして、その解決に向けた最適な方策を選択していく必要があるという基本認識のもと、令和4年12月に「横浜市中期計画2022～2025」を策定しました。

「明日をひらく都市」を共にめざす都市像として描き、その実現のための基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を

掲げて、9つの中長期的な戦略と、計画期間の4年間に重点的に取り組む38の政策を取りまとめています。  
戦略1「すべての子どもたちの未来を創るまちづくり」には、本号に掲載している保留児童対策タスクフォースや子育て世帯のライフスタイルに沿うまちづくりでの調査やデータ分析の成果、戦略4「未来を切り拓く経済成長と国際都市・横浜の実現」には、市内経済を支える中小・小規模事業者のデジタル化などへの支援や商店街への支援、観光の振興などの取組が繋がります。また、戦略5「新たな価値を創造し続ける郊外部のまちづくり」には、郊外部のまちづくりや住生活に関する取組が、戦略2「誰もがいきいきと生涯活躍できるまちづくり」には地域包括ケアの推進の取組などが繋がっています。